

普及情報
分類名〔病害虫〕

情 6	イチゴのハダニ類に対するアシノナピル水和剤 の防除効果
------------	--

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

新規殺ダニ剤アシノナピル水和剤の茎葉散布はイチゴのハダニ類に対して高い防除効果を示す。

普及対象：イチゴ等生産者
普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

アシノナピル水和剤は、各種ハダニ類に対し高い活性を示す新規殺ダニ剤である。イチゴのハダニ類に対し、高い防除効果が認められたため普及情報とする。

2 普及情報

(1) アシノナピル水和剤はイチゴのハダニ類に対し、対照薬剤のシエノピラフェン水和剤と比べ高い防除効果を示す（図1）。

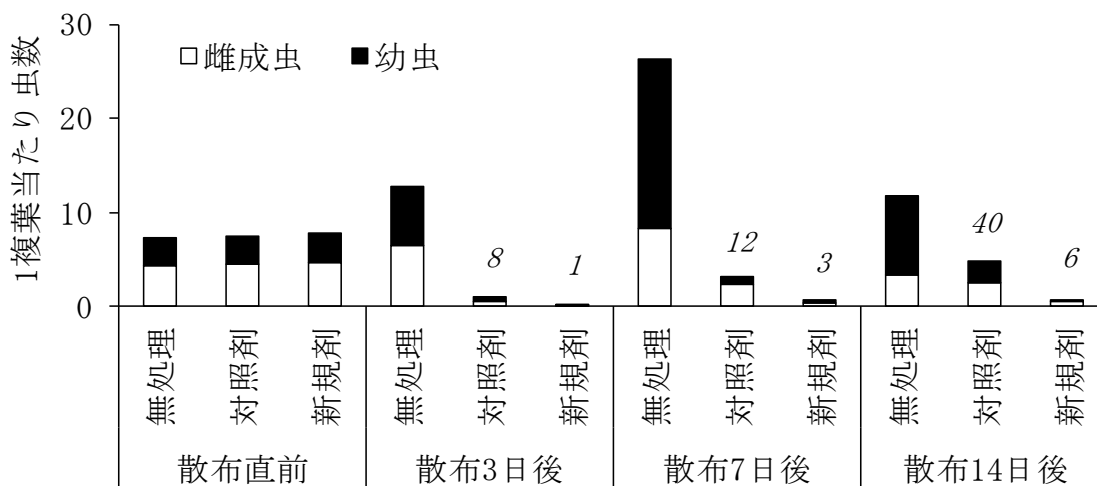


図1 イチゴのハダニ類に対するアシノナピル水和剤の防除効果（平成25年）

注1) 耕種概要 品種：なつあかり

平成25年7月1日定植 7月29日に薬剤を200L/10a散布

注2) 3反復、各区6株の全葉に寄生するハダニ類の雌成虫・幼虫を計数した

注3) 対照剤：シエノピラフェン水和剤（商品名：スターマイトフロアブル）2,000倍処理

注4) 新規剤：アシノナピル水和剤（商品名：ダニオーテフロアブル）2,000倍処理

注5) 斜体数値は補正密度指数を示す。数値が小さいほど効果が高い。

補正密度指数 = $(Ta \times Cb) / (Tb \times Ca) \times 100$ Ta: 処理区の散布後虫数 Ca: 無処理区の散布後虫数
Tb: 処理区の散布前虫数 Cb: 無処理区の散布前虫数

3 利活用の留意点

- (1) アシノナピル水和剤の商品名は「ダニオーテフロアブル」である。
- (2) ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすいため、薬剤抵抗性発達を防ぐために本剤の使用はできるだけ年1回とし、作用機作の異なる薬剤とのローテーション防除を行う。
- (3) 本剤の特性として、銅剤との混用及び近接散布は防除効果が低下するおそれがある。そのた

普及情報 6 イチゴのハダニ類に対するアシノナピル水和剤の防除効果

め、銅剤との混用や銅剤散布後に本剤を散布することは避ける。また、本剤の散布後に銅剤を散布する場合は10日以上間隔を空けて散布する。

- (4) 本剤はサビダニ類、ホコリダニ類には効果が期待できない。
- (5) 本剤は新規の作用機作を有する（IRACコード：不明）。また、ミツバチ、マルハナバチ、カブリダニなどの有用・天敵昆虫に対する影響が少ない。
- (6) 薬剤を使用する際は、最新の農薬登録情報を確認する（独立行政法人農林水産消費安全技術センタートップページ <http://www.famic.go.jp/>）。

（問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話 022-383-8133）

4 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 試験研究課題名及び研究期間
新農薬による病害虫防除に関する試験(平成25年度)
- (2) 参考データ

表1 ハダニ類に対するアシノナピル水和剤の適用一覧（令和3年2月4日現在）

作物名	適用害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	アシノナピルを含む農薬の総使用回数
りんご	ハダニ類	1,000～2,000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	散布	1回	1回
なし		2,000倍					
おうとう							
小粒核果類			100～300L/10a			2回以内	2回以内
いちご							
なす							
すいか							

- (3) 発表論文等
 - イ 関連する普及に移す技術 なし
 - ロ その他 なし
- (4) 共同研究機関
なし